

土岐の昔ばなし  
第三話

# 山神温泉



TOKI-City  
tourism association  
土岐市観光協会

### 【山神温泉】

薬師の湯として、多くの人に親しまれています。

泉質はナトリウム、フッ素など十二種の成分を含んだ良質のラジウム泉で、慢性皮膚炎、神経痛、創傷、美肌作用などの効果があります。



薬師堂内の薬師碑



Webサイトへ

発行：土岐市観光協会

事務局 〒509-5192  
岐阜県土岐市土岐津町土岐口2101  
(土岐市役所産業振興課内)  
TEL 0572-54-1111 FAX 0572-54-0210  
<http://toki-kankou.jp>

土岐の昔ばなし 閲覧・印刷できます！

右のQRコードから下記URLからWebサイトにアクセスしてください。  
<http://toki-kankou.jp/toki-old-story>

やまがみおんせん

(再話・滝 節子)

# 山神温泉

(絵 … 佐渡山安正)

ずっと昔、京の都に義延よしのぶというたいそう弓が上手で、情け深い武士がいました。

あるとき宮みやから、美濃地方みのちほうの武家達ぶげたちをとり

おさえるよう命じられました。義延の妻は、

「留守はしっかり守ります。どうか立派に

お働きください。」とお守り袋を手渡しまし

た。義延はそれを大切に懐中かいちゅうに入れ勇ましく

出発して行きました。

その頃、美濃地方は激はげしい戦場せんじょうで、官方みやかたは

苦戦をしていましたが義延等いが加わってか

ら味方みの兵達は勢もいを盛り返かえし、残る敵てきひがしを東

美濃みのの方へ追って行つたのです。

そんなある日、義延が戦いくさで活躍かつやくしてくれた

愛馬の世話をしていると、物かげから現れた

男おとこに、ふいに背後はせいから切りつけられ、義延は

その場にどつと倒れてしまいました。

その後、痛みで気がついた義延が、傷口を

おさえるものはないかと懐中をさぐつたと

ころ、手にふれたのはお守り袋でした。義延

は、それをたぐり出しあけてみると中にはき

れいな黒髪と、白い布が入っていました。

さつそく布を傷口にあてがうと、安堵あんどとと

もに、なつかしい妻のことを思い出し、黒髪

にもう一度手をふれようとしたとたん、ふつ

と風が吹いて髪の毛はふわりと飛んでしま

ったのです。

「あつ」手を伸ばして捕えようとすると、風

に舞まうチョウのようにふわふわと飛んで行

きます。

夢中ひとごとになつて髪かみの後を追おい人里ひと離れた溪けい

谷こくに来た時、やつと髪を手に取ることができ

ました。気がつくとそのこには岩の間からこん

こんと湧わき出る泉いがありました。

痛む傷口いたを浸し、かわいたのどをうるおす

と、一度に戦の疲れが出て、そのまま眠つて

しまいました。

目覚めざめてからも、自由よゆうにならない体いなの

で、泉の水で傷口を洗よい、養生ようじょうしていると、あ

んなに深かった傷口に皮がはり、みるみる治

つていきます。義延の無事いを祈る妻の心が神

に通つうじ、この泉みちびに導みちびき命を助けたのです。

傷の治つた義延は、里に行つて人々にその

ことを告げると、泉が体によいといううわさ

は村中に広がりました。

その後、義延は山のすがすがしい風、川の

澄あんだせせらぎの音が聞こえる自然の中で、

すっかり健康を取りもどし、京へ向けて旅立

つたのです。

義延が傷を治した話は次々に伝わり、彼が

去つた後も、泉には絶え間なく人が訪れ、山

神温泉として栄えるようになりました。

おしまい

湯歴は700年といわれ、薬師堂には薬師如来像と薬師碑が祀られています。



このお話しは、(社)土岐青年会議所発刊の『土岐の昔ばなし』から転載させていただきました。